OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	onoma ： 伝統的イメージの現代における可能性の検討
Author(s)	岡, 達也
Citation	デザイン理論. 2012, 59, p. 122-123
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53502
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

onoma
── 伝統的イメージの現代における可能性の検討 ──

岡　達也／京都工芸繊維大学大学院　工芸科学研究科　造形科学専攻　博士後期課程

日本には数多くの伝統工芸が存在している。特に，京都は平安遷都以降1000年以上に渡って日本の都であり続けたという背景もあり，伝統工芸品を生産する工房が数多く存在している。そこで生産される伝統工芸品は，素材，デザインをはじめ，技法・加工技術など，あらゆる面で高い品質のものをつくりだしてきた。しかし，現在，その伝統工芸が，非経済的な生産システムや，海外から輸入される安価な製品との競合，原料不足，後継者不足など，さまざまな問題を抱えて，危機的状況にある。

本プロジェクトは，伝統工芸の意匠的な側面に焦点を当て，デザインを中心にさまざまな工房が集結し，多様な作品群を生み出すことで，そのような危機的状況にある伝統工芸の活性化への一つのきっかけとなる方法を模索するものである。

古来より，陶磁器，漆工，金工など様々な伝統工芸品に使用されてきた意匠から，モチーフ，形態，色彩などを，特にグラフィック的な側面から抽出し，その要素を再構築した。また，それらのグラフィックイメージを現代の生活の中で使われるものに実際に落とし込むことで，伝統的なイメージの現代における意義や可能性を検討する。

まず，抽出した伝統的なイメージをもとに，新たにグラフィックイメージを制作する。そのグラフィックイメージをパターン化し，それらのパターンを使用して，さまざまな業種の複数の工房でプロダクトを制作する。このことにより，制作する作品のイメージの統一を図るとともに，デザインを介して異業種の工房同士に横の繋がりをつくりだす役割を果たすことができる。

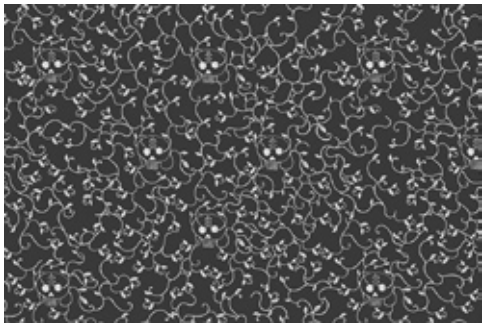
具体的にパターンを物へと落とし込む際，それぞれの工房の持つ技法や，使用される素材に合わせて展開する必要がある。

例えば，錺金具では，透彫，線彫，肉彫や金属の裏側から叩いて部分的に盛り上げる技法など，さまざまな技法の中から最適なものを選択する。箸置きの唐草の部分は透彫で表現し，菊の部分は鏨で線彫することで，花弁の部分を盛り上げるように表現した。また，素材に瓦を用いたプレートでは，パターンの部分を金彩の技術を活用した金箔の装飾で表現した。金彩もデザインによって，金箔と糊を混ぜた状態のものを筒状のものから絞り出して描くように金箔をのせていく方法や，型紙を使用して，糊を塗布した後に金箔をのせる方法などがあるが，この場合は量産性を加味して，型紙を使用した。さらに，パターンをそれぞれの技法で表現する際，作品群がひとつのブランドとして成立するように素材を加工する必要がある。

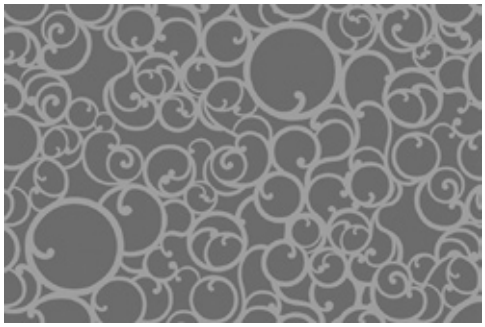
現在，錺金具，金彩，京瓦，和傘，京友禅，唐紙で商品化へ向けたプロトタイプを制作しており，今後さらにデザインに検討を加えていきたい。

制作協力工房：株式会社森本錺金具製作所／金彩 荒木／浅田製瓦工場／かみ添／日吉屋

グラフィックイメージ



髑髏



唐草

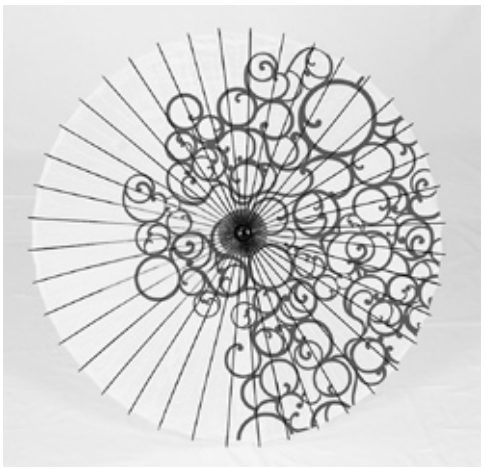
梅

露草

作　品

京瓦のプレート（2009）

錫金具の箸置き（2009）



和傘（2011）